

工場閑散期にワンピース集中生産

業界の慣習逆手、コスト減へ



工場の閑散期を活用し、品質安定とコスト低減を両立する

スタートアップのnew R

婦人服の企画・販売を手掛けるスタートアップ、new R（ニューアール、東京・港）は国内縫製工場の閑散期を活用した集中生産に乗り出す。特定の時期に大量生産して在庫を積むアパレル業界の慣習を逆手に取り、前倒して生産を委託。品質安定とコスト低減の両立を目指す。国内工場も人手の確保や稼働率のばらつきなど問題の解消につながりそうだ。

ニューアールはワンピースの生産を日本国内にある協力工場に委託しているが、2020年から工場の閑散期にワンピースを生産する体制を構築する。一般的にアパレル業界では春夏商品を1〜4月に、秋冬商品は7〜

10月にかけて生産することが多い。ニューアールは春夏は前年の11〜12月に、秋冬は5〜6月に時期を早める。

同社の取引工場は青森県と愛知県、山形県にそれぞれある。閑散期に生産することで工場の雇用が安定する効果がある。また閑散期は人手に余裕があり、生産管理や品質のチェックを念入りにて

国内縫製工場には課題が多い

・海外の生産移転で国内生産は多品種・小ロットに。それでも納期は短く

・繁閑差が拡大。それでも海外生産と同等の工賃を求められる傾向にある

・閑散期の仕事確保は異業種や海外含めて受注を自ら提案するなど新顧客の開拓が課題

(出所) 経済産業省「アパレル・サプライチェーン研究会報告書」より抜粋

きるメリットも見込む。このほか、歩留まり改善のほか、従業員の残業時間なども減らすことができるという。ニューアールでは閑散期の生産でコストを1割弱減らせるとみており、その一部は商品価格に反映する。

ニューアールは人それぞれで異なる骨格や顔の色といった要素を診断して似合う服を提案する「オーダーメイド」型の手法が特徴だ。中川かおり社長は閑散期生産について「少数生産ならではの取り組みだ」と話す。アパレル業界は通常、シーズンごとに商品を大量に生産し、抱えた在庫を夏・冬のセールで値下げして一掃する流れが常態化する。かねて「非効率」と指摘されるが、古い慣習は根強く残る。

閑散期の集中生産は業界でも広がりがつつある。衣服生産プラットフォームを提供するシタテル（熊本市）は閑散期の縫製工場と発注者との間で

仕事を仲介するサービスを提供している。

ニューアールは17年に設立。独自に企画したワンピースをインターネット通販や百貨店の催事で販売する。20年1月時点でワンピースは全58デザインを展開。素材は伸縮性のあるジャージーが中心で大人用は税抜き2万8千円〜3万3千円。19年10月期の売上高は500万円だった。22年10月期には3億円にする目標を掲げる。